

〈解答〉

- ① 1 (1) I : イ II : ウ III : ア (完答) (2) ア  
 2 (1) 地頭 (2) ウ  
 3 (1) イ  
 (2) 〔例〕農具の発明や改良が進んだり、新田開発により耕地面積が増えたりした。

配点 ① 1(2), 2(2)は各1点, 他は各2点 10点満点

〈解説〉

- ① 1(1) I 元のフビライ・ハンの軍が高麗の軍もあわせ、1274年に九州北部におし寄せ、博多湾に上陸した。元軍の集団戦法や火器に日本軍は苦戦したが、暴風雨の影響もあって元軍は引きあげた。このできごとを文永の役という。その後、1281年に再び元軍が九州北部を襲ったが、暴風雨のために壊滅的な打撃を受けて引きあげた。このできごとを弘安の役という。これらのできごとの際、御家人たちは恩賞を期待して元軍に立ち向かったが、幕府は恩賞の土地を十分に与えることができなかった。II 南北朝の争乱は1336年に始まった。力を強めていった守護は、領国の武士を家来として従えるようになり、一国を支配する守護大名へと成長していった。III 応仁の乱は、細川勝元と山名持豊〔宗全〕の勢力争いに、将軍のあとつぎ問題や畠山・斯波両氏の相続争いがからんで、多くの守護大名が細川側、山名側に分かれて京都を中心に11年の間にわたって行われた争乱である。この結果、戦乱が地方に広がって、公家、将軍の権威が落ち、戦国時代となった。
- (2) イの和同開珎は708年に発行された。ウは江戸時代、エは安土桃山時代である。
- 2(1) 地頭は、荘園領主に納める年貢の取り立てを請け負っていた。荘園や公領の農民たちは、荘園領主へ納める年貢だけでなく、地頭に対するさまざまな労役なども負担しなければならなかった。
- (2) アは奈良時代、イは大正時代、エは江戸時代の農民のようすである。
- 3(1) この検地で、面積の単位を統一し、村ごとに田畑・屋敷の面積と収穫高を調査し、その石高に応じて年貢を負担させることにした。これによって、荘園制度は完全になくなった。イは江戸時代のことである。
- (2) 江戸幕府や大名は、用水路をつくったり、干潟や沼地を干拓したりするなど新田開発に力を注いで、米の生産量を増やした。3図は、千歯こきで脱穀(穂からもみをはずす)の農具である。他にも土地を深く耕することができる備中ぐわなどを使用して、農業の生産力を高めた。